



イラク・サウジアラビア：国境付近での襲撃事件

2015年1月5日早朝、サウジアラビア北部のイラクとの国境付近のアルアル地区で、同国の国境警備隊のパトロール隊が襲撃を受け、隊員に死傷者が出た。一方、同地区のイラク側においても、4日にイラクの内務省と治安筋が、イラクの国境警備隊の詰め所に対する襲撃事件や、「イスラーム国」の幹部とされる者の複数の殺害事件が発生したと発表している。

これらの件について、インターネット上で「イスラーム国」名義で4日のイラクの国境警備隊の詰め所に対する襲撃事件を指すと思われる犯行声明と襲撃の様子の画像が出回っている。

評価

「イスラーム国」の声明・画像は、流布した経路・書式などから見て同派が通常戦果発表や広報に利用している様式に沿ったものであり、ここから「イスラーム国」がイラク・サウジの国境地域で何らかの作戦行動を行った可能性が高いと判断できる。犯行声明は、サウジを指して「サルール家」という蔑称を用いているが、これは盗賊一家を意味し、通常イスラーム過激派諸派がサ우드家を意味して用いる表現である。その一方で、今般の声明は「サルール家との国境沿いのサファビー軍（イラク軍のこと）の拠点に突入」との題名と襲撃の様子の画像複数、声明発行日、発行主体についての情報を含むだけで、襲撃の意図や今後反復する可能性などについては記されていない。

サウジは「イスラーム国」にとって、アメリカに追従する傀儡政権であり、論理的には敵対勢力のひとつである。しかし、「イスラーム国」がイラクやシリアで活動する上で必要とする資源の多くはサウジから供給されており、特に「イスラーム国」に潜入・合流した非シリア人・非イラク人戦闘員の出身地としては、サウジは第2位の人材供給源である。サウジ政府が国の政策として「イスラーム国」を支援していると断定することはできないが、同国から「イスラーム国」に多大な資源が供給されている事実は、サウジにおいて「イスラーム国」の資源調達のための活動が十分取り締まられていないことを意味する。ここから、「イスラーム国」がサウジの権益に危害を加えることは、サウジ国内での資源調達活動に対する取締りを強める結果につながりかねない、戦術的合理性を欠く行為であるといえよう。それ故、今後「イスラーム国」が5日のサウジ国境警備隊への襲撃事件に何らかの発表をするか否かが、「イスラーム国」とサウジとの関係の帰趨を判断する鍵となる。

（イスラーム過激派モニター班）